

人工呼吸器装着患者の平均装着日数

VAP (Ventilator Associated Pneumonia=人工呼吸器関連肺炎)は気管挿管・人工呼吸器開始後48時間以降に新たに発生した肺炎であり、気管挿管患者全体の9~24%に起こるとされています。

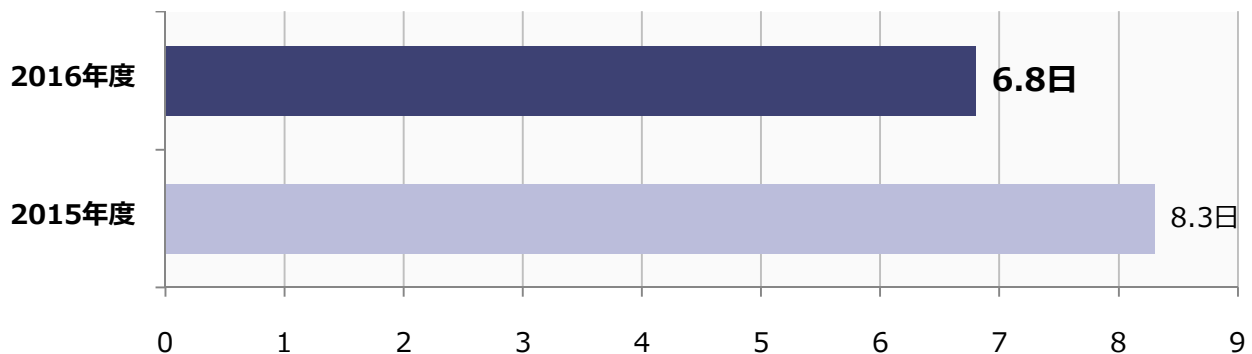
その中でも、気管挿管後5日以降の比較的遅い発症のVAP患者では、多剤耐性菌が起炎菌で予後が悪いとされています。VAPを発症することで、明らかに予後が不良となり、ICU滞在日数も長期化します。

VAPの発症リスクを減らすには、早期の呼吸器ウィニング、抜管が望ましいことは言うまでもありません。RST (Respiratory Support Team:呼吸ケアサポートチーム)では、多職種で専門性を生かし関わることで、誤嚥の予防、早期離床、合併症予防に努め、早期人工呼吸器離脱に貢献できると考えます。

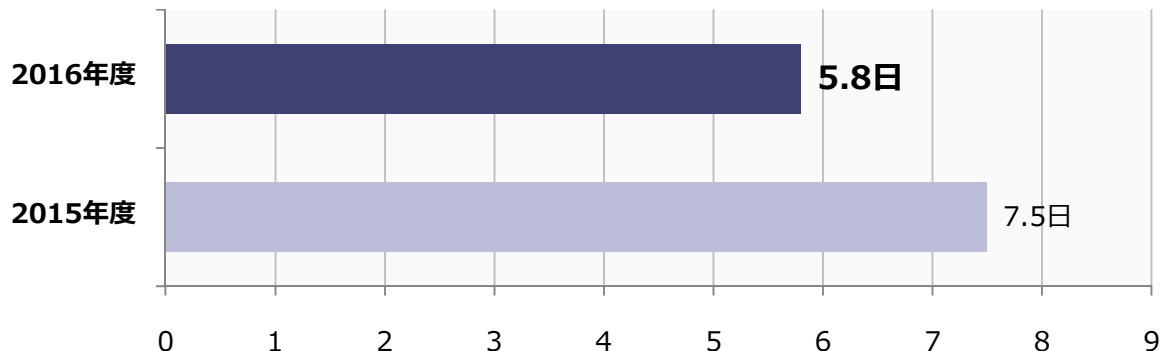
一般病棟を含む院内の人工呼吸器装着日数を把握し、VAP(人工呼吸器関連肺炎) 低減のために、この数値を1日でも短くすることが、入院日数の短縮・医療費の削減・病床稼働率をあげることに繋がると考えます。

また、昨年度までは算出していませんでしたが、救命センターの数値を別に出すことで早期介入の必要性が見えてくると考え、2016年度より救命センターのみの人工呼吸器平均装着日数を算出することとしました。

【全病棟】



【救命センター】



当院値の定義・算出方法

分子：人工呼吸器装着の総日数

分母：人工呼吸器装着患者総数

分子/分母を月別に計算し、平均を算出した。(※一般・救命含む、気切患者含む、NPPVは除く)

改善策について

全病棟の平均装着日数は2015年度の8.3日→2016年度6.8日まで短縮しました。

これは、今まで同様に一般病棟の人工呼吸器装着患者を全例RST回診していることが大きいと考えます。

また今年度から救命センターの人工呼吸器装着日数を算出していますが、この結果についても救命センター在室中から気になる症例をピックアップし介入することで、日数短縮に繋がっていると考えています。

更に離脱困難な患者において、チーム介入することで二次的合併症を予防し早期離脱できるよう積極的介入を今後も続けていく必要があると考えます。

文責：RST(Respiratory support team：呼吸療法チーム)委員長
古山 和人